

＜学校教育目標＞

心身ともに健全で 未来を築く たくましい力をもつ生徒の育成

＜めざす生徒像＞

- Ⓐ あいさつができる生徒 Ⓑ そうじができる生徒 Ⓒ 部活動・習い事を頑張る生徒
Ⓑ 勉強を頑張る生徒 Ⓓ 進路を切り拓く努力をする生徒

さ
ら
め
さ

R7121 発行

生徒数
合計232名
1年 76名
2年 82名
3年 74名



佐倉東中学校
～好学進取～

学校林整備

毎月
[九時～十一時]・
[第2土曜日・
第4日曜日]
に行っています。

す学校・PTA・社会福祉協議会・地域住民で行うボランティア活動で
興味のある方、ぜひご参加ください！

11月17日（月）「教育ミニ集会・懇話会」が開催されました。例年行っている教育ミニ集会ですが、今年度は11月16日に制定されている「佐倉市教育の日」の関連事業として、「教育懇話会」が合同で開催されました。佐倉市から教育長や教育委員、関係部の部課長、地域の方、東中学校からは保護者、教職員が参加し、「スマホ・SNSの安全な使い方～学校・家庭・地域で何ができるか～」をテーマに、グループ協議や発表を行いました。「家庭でルールを作り、そのルールを守る」「それぞれの年齢や立場に合った使い方、伝え方を考えていく」「メリットとデメリットを認識する」など、様々な意見が出ました。教育長からは「通信機器の進化を止めることはできない。制限をかけるだけでなく、大人がしっかりと向き合っていくことが必要であることを再確認できた。」という講評をいただきました。子どもたちがスマホやSNSを安全に使っていけるよう、これからも学校・家庭・地域の連携を深めていきましょう。

これに先立ち、講師を招いての「スマホ・携帯安全教室」を開催しました。SNS上で実際に起きた事例等が紹介され、「何が問題だったのか」「どうすればよかったのか」を生徒同士が意見交換しながら考えていきました。普段気軽に使っているものでも、少しの間違が大きなトラブルや犯罪につながることを知ることができました。生徒会長は、講師へのお礼に「今日教えていただいたことを胸に、スマホや携帯を安全に使い続けていけるようにします。」という言葉を添えてくれました。SNS上でも気遣いや思いやりを忘れず、スマホや携帯を「私たちの生活を豊かにしてくれる存在」として使っていけるようにしたいですね。

令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

4月16日（水）・17日（木）に3年生を対象に実施された、全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省より公表されました。本校の結果及び今後の改善策についてまとめました。

＜国語に関する調査結果について＞

国語科に対する関心は全国平均と同程度である。領域の『話すこと、聞くこと』は全国平均を下回ったが、『読むこと』『書くこと』が全国平均と同程度である。授業において、漢字や文法のテスト、有名な作品の暗唱を定期的に行っており、基礎的な知識が身についてきている。また、授業改善に取り組み、ICT機器の積極的な活用に取り組んでいる。

今後は、身につけた知識を活用し表現する力を高めていきたい。この力は、国語科だけにとどまらず、どの教科においても必要な力である。言語活動を通して、それらの力を身につけさせたい。

＜数学に関する調査結果について＞

数学科に対する関心は全国平均をやや下回った。数学科の学習において、基礎・基本の定着に力を入れているが、数学全体での正答率は全国平均から下回っている。領域では、『関数』が県全国平均と同程度であるが、『数と式』、『図形』、『データの活用』が全国平均を大きく下回った。問題形式では、『短答式』の正答率が全国平均と同程度であるが、『選択式』『記述式』の正答率が大きく全国平均を下回った。

基礎・基本の定着だけでなく、課題解決において筋道を立てて考えること、解決方法を表現する力を身につけさせたい。

＜理科に関する調査結果について＞

理科に関する関心は高い。領域では、『生命』『地球』において全国平均を大きく上回った。『エネルギー』は、ほぼ全国平均程度である。『粒子』については、全国平均を大きく下回った。問題形式では、『選択式』『記述式』について全国平均を上回ったが、『短答式』の問題においては、正答率が大きく平均を下回った。

課題解決学習を通して、今まで学んだ知識や経験に基づいて予想を立てたり、筋道を立てて考えたりと、表現する力を高めてきた成果が現れたと考えられる。学習した知識を普段の生活で活かしきれていないところが課題である。

＜生徒質問調査・学校質問紙に関する調査結果について＞

どの項目においても、ほぼ全国平均に等しいか上回っている。どの教科も分かりやすい授業の展開に努めており、授業に対する生徒の興味、関心は高い。また、『自己有用感』『規範意識』も高い数値であり、個性や自己有用感を大事にする人権教育に力を入れている成果であると考えられる。

課題と思われるのは、タブレットの活用である。充電を家庭で行う体制ができ、手軽に授業や家庭学習に使える環境が整ったものの、使用状況が上がらない。授業の中で、積極的にiPadを活用していきたい。

また、読書時間や図書室、図書館の利用が少しずつ減っている。言語活動の基礎となる読書活動にもっと力を入れていきたい。『教職員の資質能力の向上』『学校運営』『生徒指導』は、全国平均を上回っているが、『ICTを活用した学習状況』『授業改善』は全国平均より低く、課題と考えられる。

今回の結果及び分析については、本校職員全体で共有し、今後も子どもたちの更なる学力向上に努めて参ります。

なお、全国学力・学習状況調査の調査問題や解説資料、調査結果資料については、国立教育政策研究所Webページ (<https://www.nier.go.jp/>)に掲載されています。